〈中学校国語〉

論理的な思考力を育てる国語の授業
――「読むこと」の言語活動を通して――

うるま市立平安座中学校教諭　盛　小　根　久　美　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

新学習指導要領（平成20年）では，改善の基本方針として，言語の教育としての立場を一層重視し，実生活で生きてはたらく国語の能力，各教科等の基本ともなる国語の能力，言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てるとしている。さらに，「特に，言葉を通して的確に理解し，論理的に思考し表現する能力，互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや，我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。」とある。また，学校全体，各教科で「思考力・判断力・表現力をはぐくむために言語活動を充実する」ことが明記され，知的活動としての思考や論理を鍛えるための言語活動，感性や情緒をはぐくむための言語活動，コミュニケーション能力をはぐくむための言語活動や議論などの言語活動の充実が求められている。全国学力学習状況調査においては，全国的な課題として「書くこと」があげられている。具体的には「必要な情報を選択し書く力」が不十分であることが国語Ｂ問題の正答率から指摘されている。これは，知識があってもそれを活用できない生徒が多いことを示している。

一方，本校の平成21年度の学力学習状況調査結果では，Ｂ問題は平均正答率72．7％（全国74.5％）であるが，「文章から必要な情報を読み取り，簡潔にまとめて書く」36．4％（全国66.4％）「文章と補助資料との関わりを理解する」45.5％（全国64.0％）と「書くこと」だけでなく「書くこと」と関連して「読むこと」の正答率も極端に低くなっている。「言語事項」については，特に「おぎなう」の漢字の正答率は27.3％（全国53.7％）と低いうえに無解答率が45.5％（全国22.6％）と全国平均の約2倍にもなる。このことから本校の生徒は，漢字や語句についての知識が乏しいため，文章を読みとる力が弱く，それが書く力に影響していると考えられる。

これまで国語の授業において，漢字力や語彙力をつけるため漢字スキルノートを活用し「漢字テスト」を週一回実施，「辞書を使用する」ことなどを授業に取り入れてきた。しかし，定期テストで「文章を読みとり，自分の言葉で表現する」記述問題を出題したところ，ほとんどの生徒が自分の言葉で説明することができなかった。こうした傾向や今回の学力調査結果から，実生活で生きてはたらく国語の能力へつながっていないことがわかった。習得した知識を活用できる力を育てることが課題である。これまでの基礎的・基本的知識の習得を踏まえた上で，言語活動を取り入れ思考力を高める授業の工夫が必要である。改善の具体的事項として，社会生活に必要とされる言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの領域において，継続的に指導することがあげられる。

本研究では，特に「読むこと」を通して生徒の思考を深める授業を実践したい。そのためには，生徒の主体的な学習を促す「学習過程の明確化」や書く活動と連携した「言語活動の充実」を工夫し授業を展開していくことが必要である。このような学習を継続していくことで，生徒一人一人の論理的な思考力が高まり，実生活に生きてはたらく豊かな言語感覚が育つと考え本テーマを設定した。

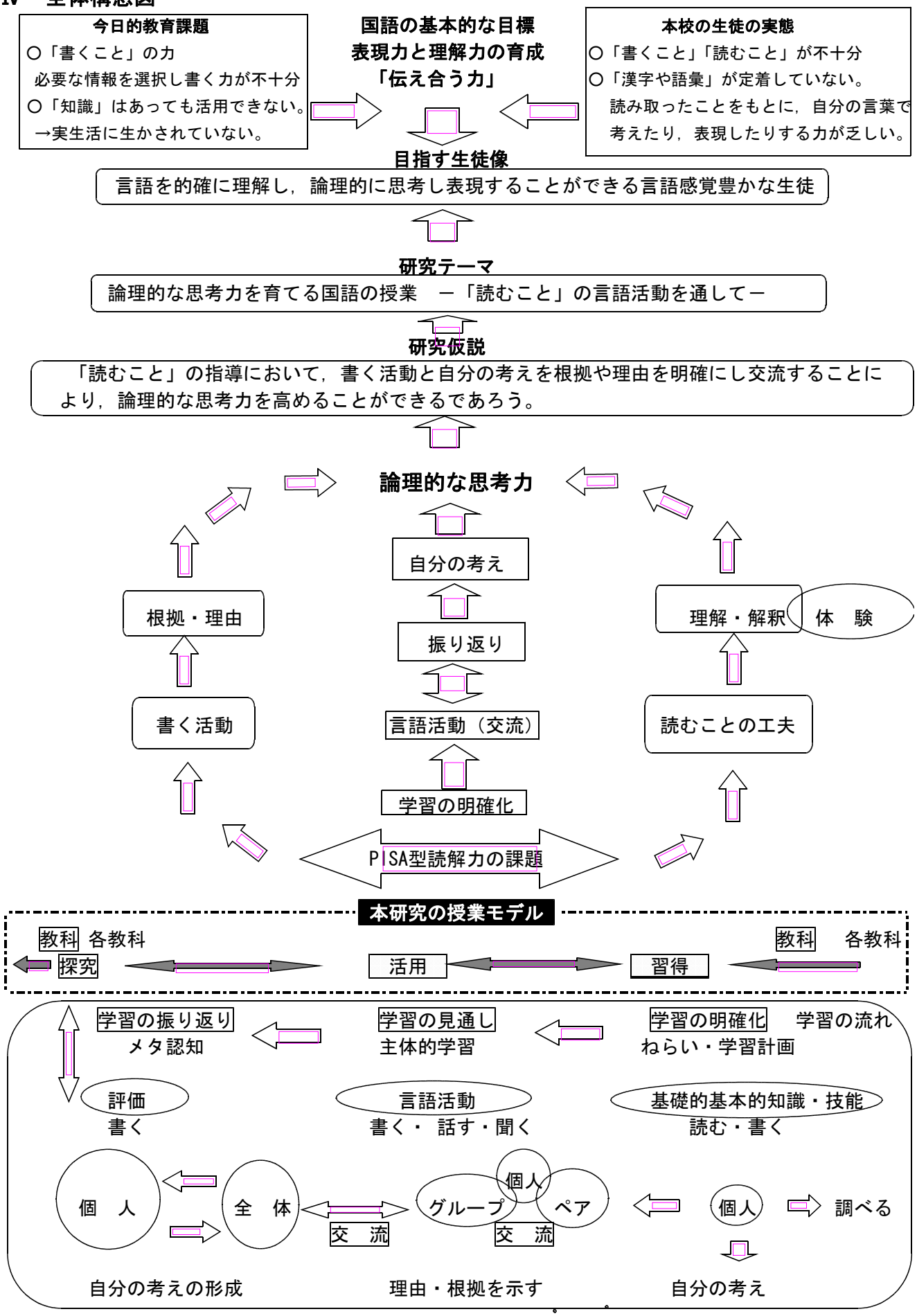
Ⅱ　研究目標

本研究では，「読むこと」において，「書く」活動と関連させ言語活動を取り入れた論理的な思考力を高める授業を研究する。そのため，①論理的な思考力を育てる授業の研究，②読むことの工夫③言語活動を取り入れた授業実践の３つを基本に授業検証を行う。これらを継続的に実践していくことで，主体的に学習する態度と論理的な思考力を高めることを目指したい。

Ⅲ　研究仮説

「読むこと」の指導において，書く活動と自分の考えを根拠や理由を明確にして交流することにより，論理的な思考力を高めることができるであろう

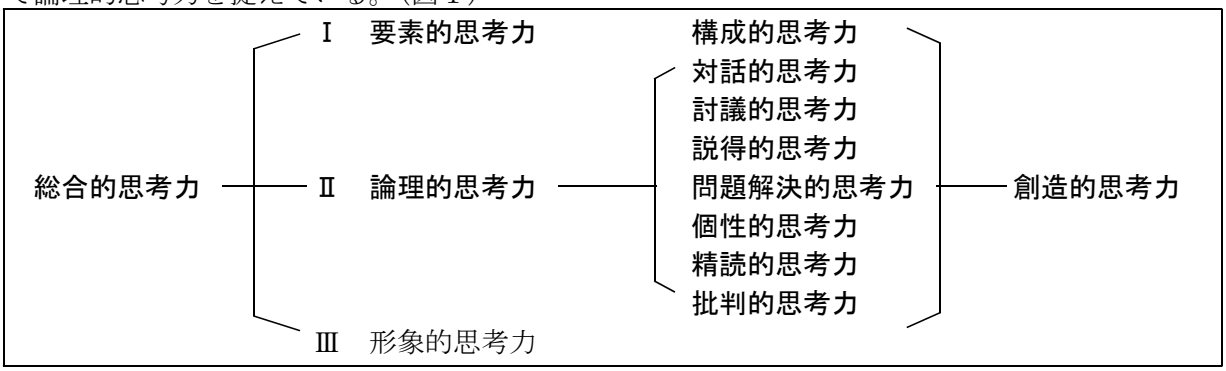
Ⅳ　全体構想図


今日的教育課題
○「書くこと」の力
必要な情報を選択し書く力が不十分
○「知識」はあっても活用できない。
→実生活に生かされていない。
国語の基本的な目標
表現力と理解力の育成
「伝え合う力」
本校の生徒の実態
○「書くこと」「読むこと」が不十分
○「漢字や語彙」が定着していない。
読み取ったことをもとに，自分の言葉で考えたり，表現したりする力が乏しい。
目指す生徒像
言語を的確に理解し，論理的に思考し表現することができる言語感覚豊かな生徒
研究テーマ
論理的な思考力を育てる国語の授業　－「読むこと」の言語活動を通して－
研究仮説
「読むこと」の指導において，書く活動と自分の考えを根拠や理由を明確にし交流することにより，論理的な思考力を高めることができるであろう。
論理的な思考力
自分の考え
振り返り
言語活動（交流）
学習の明確化
PISA型読解力の課題
根拠・理由
書く活動
理解・解釈
体　験
読むことの工夫
本研究の授業モデル
教科　各教科
探究
活用
習得
教科　各教科
学習の振り返り
メタ認知
学習の見通し
主体的学習
学習の明確化
学習の流れ
ねらい・学習計画
評価
書く
言語活動
書く・ 話す・聞く
基礎的基本的知識・技能
読む・書く
個　人
全　体
交　流
グループ
個人
ペア
交　流
個人
調べる
自分の考えの形成
理由・根拠を示す
自分の考え

Ⅴ　研究内容

１　論理的な思考力について

論理的思考力の定義については，さまざまであり「論理的思考」という言葉も多義的な意味で使われている。野地潤家（1987）は，国語科教育において育成と精練とを目指す各思考力との関係において論理的思考力を捉えている。（図１）



（図１）

野地によると，論理的思考力の対話的思考力と討議的思考力と説得的思考力とは，聞くこと・話すことの教育にかかわる国語学力であり，書くことは，問題解決的思考力，個性的思考力であり，読むことにかかわる国語学力は，精読的思考力，問題解決的思考力，批判的思考力，個性的思考力であるという。このことから，論理的な思考力は，読むことだけでなくすべての観点とかかわり形成されることがわかる。本研究は，「読むこと」の指導であるが，「論理的思考力」が，「話すこと・聞くこと」「書くこと」との総合的な関係において成り立つ国語の学力として捉え，論理的思考力を育成する授業実践を目指す。

では，論理的な思考力を育てるためにはどのような視点で授業を実践していけばいいのか。論理的思考力を育成する授業実践について小田迪夫（2000）は，「論理的思考力を育てる授業の重点は，やはり根拠や理由を考えさせる学習を課すことに置かれるべきである。」として，読むことの指導では，根拠を問う論理的思考を活発にはたらかせる授業を積極的に創り出していく必要があると述べている。また，入部明子（2000）は，論理的な思考とは「分かりやすい」と読み手や聞き手が賞する，書き手あるいは話し手の「明確な考え」とし，この「見えない思考」自分の考えを把握したり明確にさせるには「見える思考」にする。つまり文字にする工夫にあるとして作文指導のあり方を説いている。さらに，書いたことをもとにお互いが考えを述べ，共感し合い，相手の気持ちになって考えることで「見える思考」から「見せる思考」となり，信頼し合える仲間のいる居心地の良い場所作りが論理的思考力を育てる最も重要な鍵としている。このように，論理的な思考力を育てるためには，読むことの指導において，根拠を問う形式の授業で，書く活動や話す・聞くの学習活動を授業に取り入れる工夫をすることが望ましいと考える。

２　「読むこと」と書くの関連について

田近洵一は，「２００９年九州地区中学校国語教育研究協議会」において，「読むとは，文脈を踏まえて事柄の意味をとらえ，その人なりに受け止めて思想を形成することである。(中略)『読む』とは，読者の創造的な思想形成行為であるが，それを支えるのが『書く』である。『読み』は『書く』を仲立ちとして，確かなものになる。書くことなくして確かな読みは成立しない。」と読むことの学習で読解力は，書くことなしにありえないと「読むこと」と「書く」ことの関連について述べている。さらに，PISA型読解力についても以下のように説明している。

①テキストの形式
　a　連続型テキスト
　b　非連続型テキスト
②読解力の三つの側面
　a　情報の取り出し　テキストに書かれている情報を正確に取り出すこと。
　b　テキストの解釈　書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり推論したりすること
　c　熟考と評価　　テキストに書かれていることを生徒の知識や考え方や体験と結びつけること
③活動　　読み取り，それについて考え，評価したことを文章に書く。

大会資料からの抜粋であるが，田近の説くPISA型読解力とは，自分はどう考えるか，論理的な文章として仕上げることとしている。

３　PISA型読解力とは何か。

有元秀文（2009）はPISA型読解力について5つの段階を踏んで，文章の理解から意見の形成，表現，課題解決に導く力を育成していくPISA型読解力を育てるための目標を挙げている。

(1) 情報の取り出し	全文を理解して，読解に必要な情報を取り出し，自分の言葉で説明できる。
(2) 解　釈	全文を理解して，筆者の意図や登場人物の思考や行動について推論し，自由記述問題で本文に書いてあることを根拠にして，自分の意見として表現することができる。
(3) 熟考・評価	全文を理解して，自分の考えや体験と結びつけ，文章や登場人物を評価・批判し，自由記述問題で，本文に書いてあることを根拠にして，自分の意見として表現することができる。
(4) 学習課題の発見	全文をよく理解した上で，テキストを理解するために必要な学習課題を自分で考え出すことができ，グループの中で話し合って最も適切な学習課題を決定することができる。
(5) 討論による課題解決	与えられた学習課題や自分たちで考え出した学習課題について，グループで話し合って，本文に書いてあることを根拠にして，お互いに建設的に話し合い，課題を解決することができる。

これまでの国語教育では十分に対応できないPISAからの出題された問題4点

①　文章だけでなく，図表・地図・ポスターなどの非連続情報

②　正解が多様にあるオープン・エンドの問い

③　読んだことについて表現させる読解表現力

④　文章を評価・批判させるクリティカル・リーディング

PISA型読解力を身につけなければいけない最大の理由を課題解決のコミュニケーションを身につけるためであるとしている。文章を批判的に読んで自分の意見を表現し，相互批判しながら合意形成を目指す課題解決のコミュニケーションはあらゆる教科，社会生活に重要な「生きる力」であるとしている。しかし，クリティカル・リーディングに重点を置きすぎると，教材理解や教材解釈がいい加減になるという授業の陥りがちな欠点も指摘している。

そこで，「課題解決型の授業の特徴」として以下のように述べている。

①　教材文を正確に理解することを求める。

②　教材文の中から課題を発見させる。

③　課題を解決するために自分の意見を言う。

④　意見を言うときには必ず根拠を挙げる。

⑤　意見の根拠は，必ず本文に関連している。

⑥　小グループでお互いに意見を言い合う。

⑦　お互いの意見を評価し合う。

⑧　話し合って課題を解決する。

本研究においては，田近や有元の示すPISA型読解力をつけることが，「論理的な思考力を育てる」と考える。以下の有元や佐藤洋一（2009）の実践例を参考に読むことの指導の工夫を行う。

４　「読むこと」の指導

(1) 国際的な読解力を育てる指導法（有元）

【リード・アラウド】

音読である。教師が通読するのでなく，音読をしながら以下に示すような質問をしていく。黙って聞いているだけでは理解できない子どもが多いからである。

①　【予測読み】

まず，題名や表紙の絵から，どんな話か予測させる。また，大きく話の展開が変わるところで，この後の話がどうなるか予測させる。予測するためには，今までの話を集中して聴く必要がある。また，予測することで興味が高まる。

②　【確認読み】

音読しながらあらすじや大事な描写が全員の頭に入るように確認していく。

③ 【解釈読み】

予測読みとは逆に，「なぜ，登場人物がある行動をしたか」を，教材の前の部分にさかのぼって推測させる。

④ 【クリティカル・リーディング】　登場人物の行動や作者の表現を評価・批判させる。

⑤ 【クリエイティブ・リーディング】

作者になったつもりで，「ほかの終わり方を考えてみよう」など物語の一部を創造させる。

⑥ 【パーソナル・リーディング】

物語を自分とはかけ離れた世界ではなく，自分の問題として考えさせる。「あなたなら，どうやったか」など体験と結び付けて考えさせる。

(2)　**要約する力**

佐藤洋一（2009）は，全国学力調査の結果から「グラフや辞書にある情報」等を根拠にして自分の意見（考え）を書く学力が低下していると述べている。「自分の考え」を持たせ，主体的な発信型・批評型の学力を身につけさせるためには，情報を一言で簡潔に正確に「要約（キーワード）する力＝聞く力（情報を正確に，豊かに読み取る力）が不可欠である。」とし，「要約する力・聞く力」は，情報を読み解く基盤となる学力であるとしている。

「要約」は情報を正確・簡潔にキーワード化できる学力であり，（聞く・読み解く学力），全員に「自分の考え」を持たせ主体的な思考・判断・表現をさせるための基礎的な学習ステップである。佐藤の示す要約指導のポイントを参考に行った。

〈　段落がわかる　〉

○形式段落にナンバリングする。

○意味段落ごとの「レポート構成の型」をおさえる。

・「レポート構成」の型

論理的なレポートには基本的な型がある。「起承転結」は文学・漢詩のイメージ構成の方法であり，「序論・本論・結論」が一般的である。

○筆者の「結論の段落」がわかる。

筆者の結論を考えながら音読させる段階が必要である。

・音読　言語情報の正確な理解

正確に意味のまとまりごとに速く「音読」ができることが基礎の基礎である。説明文は，「段落単位」に，物語・小説は「場面単位」の音読が基礎である。音読は，誤読や教材・単元理解度の診断，子どもの関心理解，主要な概念と学びの習得レベルなどの把握にも役立つ。

〈　キーワードを抜き出す　〉

○話題のキーワード　　題名も考え合わせて，何を問題にしているか。

○判断のキーワード　　要するにどうあるべきだと述べているか。

二つのキーワードを抜き出す。筆者の考えをキーワードで要約する。

・論理的文章（説明文）

基本型　主張やメッセージの要点・キーワード ⇨ 要約と説明文・レポートの題名

応用型　具体例・資料（話題）をメインにつける。

○なぜそう考えたか（根拠・理由のポイント，考察の論点や立場）の言葉を加えて一文にすると要約キーセンテンスとなる。

必要なキーワードと字数の条件を指定して一定の時間に「一文章」にまとめさせる練習も，効果的である。

学習指導要領の「読むこと」の指導事項の内容は，①語句の意味の理解に関する②文章の解釈に関する③自分の考えの形成に関する④読書と情報活用に関する事項で，構成されている。

本研究では，①から③の学習過程に沿って学習計画を立て，言語活動例を参考に「自分の考えの形成」へと導いた。自分の考えを形成すること自分の考えを持つには，文章を正しく理解・解釈することが不可欠である。そのためには，全員が読めることを基本に「音読」を積極的に取り入れ「読むこと」の指導を目指す。有元と佐藤の示すPISA型読解力や要約する力を参考に論理的な思考力を育てる授業作りを展開する。

文学作品１年教材「少年の日の思い出」で，「僕」の行動からクリティカル・リーディングやパー

ソナル・リーディングなどで気持ちを読み取らせ，読み取ったことの根拠を示し自分の考えを述べることや自己の体験とあわせ考えることで作品の理解を深めた。また，３年教材「生き物として生きる」や１年教材「未来をひらく微生物」では，①形式段落②キーワードから段落の関係を読み取らせ，筆者の考えに対する自分の考えを根拠をあげて話し合う活動で自分の考えを広げた。また，３年教材と同筆者の同じテーマの作品を読ませ教材解釈へつないだ。１年教材では文章だけでなく文章中の図表や写真などの情報を読みとり読んだことについて自分の言葉で表現させるなど自分の考えを根拠や理由を述べ説明する授業を計画した。その他に新聞記事を参考に見出しを考えさせながら身近な環境問題の情報を提示し④読書と情報活用に関する学習過程を目指した。

５　「言語活動」について

言語活動の例として，中学校指導要領には，報告，紹介，討論，説明，発表，鑑賞，案内，詩歌や物語の創作，意見を述べる文章，手紙，批評，編集，記録等の様々な例が示されている。これらの言語活動は各領域，各教科と関わる取り組みで，思考力，表現力等の育成につながると考えられる。

国語科「読むこと」については以下のように示され，主として文学的な文章を読むことについて，説明的な文章を読むことについて，目的をもって読書を進めることについての例がある。例示されている「読むこと」の目的に応じた言語活動を工夫する授業が大切である。

①各学年・各領域の言語活動例　「Ｃ　読むこと」

第１学年	第２学年	第３学年
ア　様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。 イ　文章と図表などとの関連を考えながら，説明や記録の文書を読むこと。 ウ　課題に沿って本を読み必要に応じて引用して紹介すること。	ア　詩歌や物語などを読み，内容や表現の仕方について感想を交流すること。 イ　説明や評論などの文章を読み，内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。 ウ　新聞やインターネット，学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。	ア　物語や小説などを読んで批評すること。 イ　論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。 ウ　自分の読書生活を振り返り，本の選び方や読み方について考えること。

こうした言語活動を学習活動として行う際には，生徒が学習の見通しを立てたり，振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすることと学習指導要領に示されている。本研究では，毎時間の授業の流れを明確にすることで，学習の見通しや振り返りを意識し，自主的に学習に取り組み言語活動を充実させることで論理的な思考力を育てることができると考えた。

また，国語編学習指導要領解説（平成20年）では，「言語感覚」について，「言葉の使い方の，正誤，適否，美醜などについての感覚のことである。話すこと・聞くこと，書くこと及び読むことの具体的な言語活動の中で，相手，目的や意図，多様な場面や状況などに応じて，どのような言葉を選んで表現するのがふさわしいものであるかを直観的に判断したり，話や文章を理解する場合に，そこで使われている言葉が醸し出す味わいを直覚的にとらえたりすることである。」としている。言語に対する知識的な認識を深めるためだけでなく，言語に対する感覚が豊かな生徒を育てること，言語生活や言語活動を充実させることも目指し授業に臨みたい。

６　言語活動を工夫した授業

佐藤洋一（2009）は，「新学習指導要領では，全員が基礎・基本を確かに身につける状態を「習得」と言い，子どもの個性や考えを生かす部分・「習得」段階で身につけた基礎・基本を活用する段階として「活用」型学習ということを提示している。「習得」「活用」の次のステップとして子どもたちが主体的に自分の課題を解決する学習を「探究」段階として三段階の指導システムとして提示してみることができる。」としている。

大熊徹（2009）は，「習得」と「探究」をリンクするものが「活用」であり，その「活用」とは，習得した知識・技能を実生活の中や各教科のいずれの場の活用においても，「習得」「活用」「探究」のプロセスの中での学びであり能力育成であるとし，国語科の「活用型」学習においては，二つにまとめることができると述べている。一つは，国語科学習で習得した知識・技能を実生活（社会生活）の探究活動で「活用」するというもの。次に，国語科学習で習得した知識・技能を国語科の授業の中で「活用」するものとしている。

植西浩一（2009）は，「活用」および「活用型」という言葉について，「習得」と「探究」を結ぶ「活

用型の教育」を位置づけ，「活用する力の育成を重視」することと提唱している。

本研究もこれらの考えを参考に習得と，活用の学習がそれぞれに機能し，連動することによって，習得―活用―探求の学びが円滑に結ばれ，論理的な思考力が育つと考え，そのような学びの連関の構築をめざして，日々の取り組みを進めていきたい。

7　「授業実践における工夫」

これまでの「教師主導，受容型の一斉授業」の改善として学習者の主体的な参加の授業例（植西）

〇本研究の取り組み（★は本研究で取り組んだ項目と例）

ア　学習目標を明確にもって授業に臨ませる。

・単元や一時間の学習の目標を明確にする。

今，自分はなぜ，どのようなことに取り組み，どんな力を身につけようとしているのか，それを学習者自身が意識して取り組むことで主体的な活動が生まれ，活用の場の設定が可能になる。

★カードを使い学習活動を提示

イ　聴き合える学習集団づくりに努める。

・教室の机の配置の工夫

・教師による発言の復唱や機械的な板書はさけ,聞き取りメモをできるだけとらせるようにする。

・聴くことの楽しさを実感させ，聴く力の伸びを自己評価させていく。

★話し合いのグループの組み合わせと座席の配置の工夫

ウ　自主的な発言を促す働きかけを継続的に行う。

発言したくなるような教材の開発，課題設定の工夫も大切になる。

エ　考えを書く機会をできるだけ多く設ける。

考えをどんどん書かせることで，発想が広がり，思考が深まる。書かせることは，活用型の授業をつくる上で，重要である。定期テストに作文問題を組み込んでいくことも重要となる。

★ノートやワークシートでの振り返り　★定期テストでの作文問題

オ　主体的なノートづくりに取り組ませる。

・大学ノートではなく，縦書き用１ページ17行の国語学習ノートを使用する。

・筆記具は鉛筆ではなく黒の水性ボールペンを用いる。

・聴き書きを習慣化し，日付，学習課題，学習目標，発言者名，発言の要点を記録する。

・ノートの下三分の一から四分の一程度をメモ欄として活用する。

・学習プリント等のすべての資料は，加工してノートにはる。×

（以前やったが貼るのに時間を取られた。ノート点検しづらく生徒の自主性がないとできない。）

★ノートは5㎜方眼を使用（文字のバランスが良くなり読みやすい。）

★水性ボールペンは生徒から好評。　漢字テストでは，鉛筆使用

★ノートは三段構成で，上段に日付，学習課題等，下段はメモや自由欄

カ　個別学習やグループ学習を適切に取り入れる。

個別学習は，熟考のための大切な機会であり，グループ学習は，相互交流を通して視野を広げ考えを深める場となる。

★1時間の学習過程や単元の学習過程で，個別→ペア・グループ学習→全体→個別の流れで思考を深める場を設ける。

ア～カの観点はこれまでの授業で何となく行っていたことが，「活用型の授業」の取り組みと関連していたこと，目指す論理的な思考力を育てる授業作りが「活用型の授業」とつながることなどが確認できた。これまで，実践してきたことを生かし，その効果を見える形にして授業実践，評価していきたい。

8　指導に生かす評価について

指導と評価の一体化を目指し，下記の植西の評価方法を参考に計画を立てた。

①　自己評価・相互評価の重視

活用型の学びでは，自己評価を重視したい。自己評価は，自らの情意や，知識・技能の習得を把握し，自己の学習の状況を知り，今後の学習改善に生かそうとするものである。自己評価力の育成は，自己学習力の形成に結ぶついていく。

②　診断的評価・形成的評価の位置づけ

活用型の学習の出発点では，基礎・基本の習得状況の確認が重要となる。学習の節目節目で適切に形成的評価を組み入れ，達成や成長を喜び，次のステップへの評価を大切にしたい。

③　多様な評価方法の工夫

活用型の学びには，多様な評価方法の工夫が求められる。思考力や判断力，表現力を把握するためには，このような評価や様々な形での文章記述をみる評価等を適切に組み込むことが不可欠となる。

評価の方法

①　評価は毎時間ごとに，自己評価を行う。

☆本時を振り返り，わかったことをノートやワークシートに記述する。

☆ペア音読で，相手の読みを評価し合う。

②　単元，教材に関する評価規準

ア　国語への関心・意欲・態度　イ　読むことの能力　ウ　言語についての知識・理解・技能の項目で，Aを目標達成の姿とし，具体的な姿の例などを設定する。Cの生徒への手だてを考える。

☆ノートやワークシートは，毎時間点検しCの生徒を出さないように放課後の個別指導を行う。

☆指導と評価の一体化を目指す。ワークシート等の評価だけでなくペア学習の活動状況も評価する。学習活動の始めに，評価規準を示し学習意欲や成就感を持たせた。また，良い活動や場面では評価し，ほめる言葉やシールなど生徒にわかる形にした。担任へも報告し意欲へつなぐ。

③　単元を振り返っての評価

目標達成の実現状況を評価規準に沿って評価し次の手だてを考える。

☆読みのテスト　ペアの音読を評価する。（読み仮名テストで誤読を確認できる。）

Ⅵ　研究実践

１　1学年　　12月10日(木)3校時実施

(1) 単元名　５真実を語る　　事実をとらえ，正確に伝える

(2) 教材名　「未来をひらく微生物」　　大島泰郎

(3) 具体的な言語活動

図の説明や根拠となる段落をあげ文章構成や自分の考えを説明することができる。

(4) 既習内容と単元（教材）設定の関連

１学年では，１学期の単元で「ちょっと立ち止まって」「クジラたちの声」で，段落の関係や筆者の考えを接続語や指示語に着目し読み取ることを学習してきた。ここでは，段落の関係や構成を捉え，筆者の考えを根拠をもとに読み取ることで論理的な思考を深めたい。また，図を見て説明することで，理解力や思考力を高めるだけでなく，話し合い活動を通して自分の考えを他者にわかりやすく伝えることを身につけていくことも必要である。また，微生物と環境のかかわりから身の回りの環境について考える機会としたい。

(5) 生徒観

男子が多く集中力に欠け,落ち着かないなど学習態度に課題がある生徒がいる。発表や意見を出す場面などで不真面目な発言をする傾向がある。互いに堂々と意見を言える関係が築かれていないため，偏った考えに流れがちである。前回の「麦わら帽子」でも意見が偏よりがちで国語科の目指す「話し合い」とは程遠いものであった。読解能力に課題のある生徒が男女ともに１．２名程みられ，授業の進行が男子の集中力に左右され，女子はほとんど受け身であり学級として学び合う意識が低い。アンケート調査では,「書くこと」を苦手とする生徒が大半を占めており，図の説明も面倒がりあまり考えない傾向が予測される。話し合い活動を行うことで考えを広げ互いに学び合う姿勢を身につけさせたい。

(6) 指導上の工夫点

①　さまざまな読む活動と書く活動を取り入れる工夫。

②　段落の役割や文章構成について，図を用いる。

③　発表形式にして相手意識を持たせることで，要旨をまとめやすくする。

(7) 学習指導計画（5時間）△発問　○評価

時	主な学習活動	指導上の留意点　○発問	備考（評価等）
1 語句の意味の理解	・本時の目標，学習の流れを確認する。 ・題名の言葉について考え，これから学習する内容について確認する。 ・題名から予想した内容を発表する。 「予測読み」 ・読めない漢字や意味のわからない語句には印をつける。 ・語句の意味を教科書を中心に調べ，ノートにまとめる。 ・まとめた内容を発表	・本時のねらいは一緒に板書する。 △「未来をひらく」とは「微生物」って何ですか。 △「微」の意味も考えてみましょう。 ・「範読」	○題名から予想されることや自分の考えをノートに書ける。 ○調べた語句の意味「微生物」「発酵」「生分解性プラスチック」をについて二人一組で話し合いまとめる。 （ペア学習）ノート点検
2 語句の意味の理解	・目標，学習の流れ確認 ・形式段落に番号をつける。①～⑱ ・「確認読み」音読。 ・重要な語句の意味をまとめる。 ・互いの説明文を発表 ・題名の「未来をひらく微生物」とは何かわかったこと，疑問点を書く。 ・本時の学習を振り返ってわかったことや疑問をまとめる。（自己評価）	前時の続き　（ペア学習） ・「発酵」「生分解性プラスチック」について説明。機器を使用し，全員見える工夫で集中させる。 ・内容に関する疑問は付箋紙に記入し提出させる。	○「微生物」や「環境問題」についての疑問やわかったことなどを書くことができる。（ノート点検）
3 文章の解釈	・本時の学習の流れを確認する。 ・導入・本文・まとめの三つに分かれることを確認する。・さらに本文を二つに分けることを確認する。 ・段落の役割やキーワードに着目し筆者の考えを「キーワード」を⑰⑱二つあげノートに抜き出しまとめる。	・意味段落ごとの文章構成が三段落であることを確認する。（P135）の学習２課題。（ペア学習） ・何を問題にしているか（話題のキーワード），要するにどうあるべきだと述べているか（判断のキーワード）を確認。	○キーワードを使い筆者の考えをまとめることができたか。（ノート点検）
4 文章の解釈	・本時の目標学習の流れを確認する。 ・音読 ・段落の役割やキーワードに着目し文章構成について，導入・本文・まとめと本文をさらに二つに分ける。 4人グループ×４　　3人グループ ・話し合った結果をグループの代表で説明する。 ・筆者の考えをまとめ自分の考えを書く。 ・本時の学習でわかったことをノートにまとめる。　（自己評価）	・互いの読みを評価し合う。（ペア） △なぜ，そうなのか，根拠（段落の働き）をあげて説明しましょう。 ⑤段落を確認し，⑥段落「まず」に気付かせる。⑤との関係をとらえる。（グループ学習） ＊ワークシート活用（付箋紙） △⑱段落の筆者の考えを書きなさい。それに対するあなたの考えや思ったことを書きなさい。	○段落を分け，互いの考えを根拠をもとに説明することができたか。 ○筆者の考えに対して自分の考えをまとめることができたか。　＊ノート資料①
5 文章の解釈（本時）	・図を見て段落を探す。 ・図を説明する文章を考える。 ・互いに話し合いわかりやすい文章にする。 ・わかりやすくするために必要な語があれば挿入する。 ・グループごとにまとめた文章を発表する。・図の効果について考え，本時のまとめを書く。	・図を説明し，例文を示す。 ・要約するときのポイントを確認する。 ・ワークシート① ・本文中からキーワードを抜き出す。 生分解性プラスチック　植物のでんぷん 微生物　分解　環境　循環　など ・キーワードを使い文章の要旨をまとめることができる。	○図を見て要旨をまとめることができ図の効果について考えることができる。 ・ワークシート②

	主な学習活動	指導上の留意点　○評価	備考（評価等）
6 自分の考えの形成	・学習の流れ ・筆者の考えについて，考えたことや疑問を考える。 ・互いの考えを話し合う。 ・「微生物」「環境」についてその他の資料を読む。 ・環境について知りたい事や調べたいこと考えたことをまとめる。	・ワークシートで確認する。 ・疑問点について話し合う。 ・「微生物」に関する記事と「環境問題」に関する文章の要旨を確認する。	○資料を読み，環境について考えたことをまとめることができる。

(8) 本時の学習　４／５時間

① ねらい

図と文章の関係をとらえわかりやすく説明することができる。

② 授業仮説

図を見て，わかりやすく説明する文章を考えることで必要な言葉やキーワードに気付き要旨をまとめることができるだろう。また，相手意識を持ちわかりやすく工夫して説明することで論理的思考を深めることができるであろう。

③ 展開

学習活動	指導上の留意点	評　価	備考
・本時の目標 ・学習の流れ ・前時の確認　　10分	・生徒と一緒に板書する。 ・学習活動を確認する。		資料②
・P131の図から形式段落の確認 ・キーワードを探す。　2分 ・図の説明文を考える10分 ・互いの説明文を読んで，グループで最も良い文章に仕上げる。 5分 ・説明文を発表する。　5分 ・P132の図の効果について考える。　5分 ・図の説明をどこに挿入するとどんな効果があるか話し合う。 5分 ・図の説明文を考える。5分	・P130～P131　⑨～⑩段落 ・キーワードを確認する。 ・10分間でワークシートに記入までする。200字 ・良い文章の人を選び，良い点や補う点を話し合う。 ・4人×４　3人×１ ・図と文章の関係や筆者の考えを考えさせ，効果的な文章にする。 ・時間があれば発表させる。	 ○キーワードを使い要約できたか。 ○良い文章の根拠を話し合えたか。 ○わかりやすくまとめたか。 ○図の効果がわかったか。 ○効果的に図を使い文章を考えることができたか。	ワークシート① OHP ワークシート②
・本時の学習でわかったこと 3分		○図と文章の関係を考えることができたか。	ワークシート②

④ 評価

図を見て，文章との関係や効果的な説明文を考えることができたか。

ワークシート（図３．４）とノートの振り返り（図２）の確認をする。

(9) 成果と課題

① 成果

・キーワード（重要語句）をとらえさせることから，文章の要点や段落の関係，筆者の考えを読み取ることができた。

・4時間目の授業では筆者の考えを読み取り自分の考えをまとめ学習の振り返りで自己評価ができた。（図２）

・新聞記事の見出しを考えたり，教科書の図の効果を考え説明することで筆者の意図を読み取

り理解を深めることができた。（図３・４）

② 課題

・書く時間と考える時間，話す時間を十分区別して活動させること。

・何を書くのか，話すのか視点を的確に指示すること。

・書く時間は，じっくり考えさせる時間としてとり，途中で説明をしたりしないこと。（今回書く時間の予測が甘かった。）

今回の1学年検証授業では，筆者の考え意図や文章の内容を解釈することはできた。

3学年の授業（11月27日実施）では，文章中の筆者の考えに対する自分の考えを述べることができた。

しかし，課題の提示の仕方や時間設定などの工夫が必要である。一つの授業に課題が多く，互いに学び合い自分の考えを広げる話し合い活動ができなかった。話し合い活動を充実させる学習が課題となった。

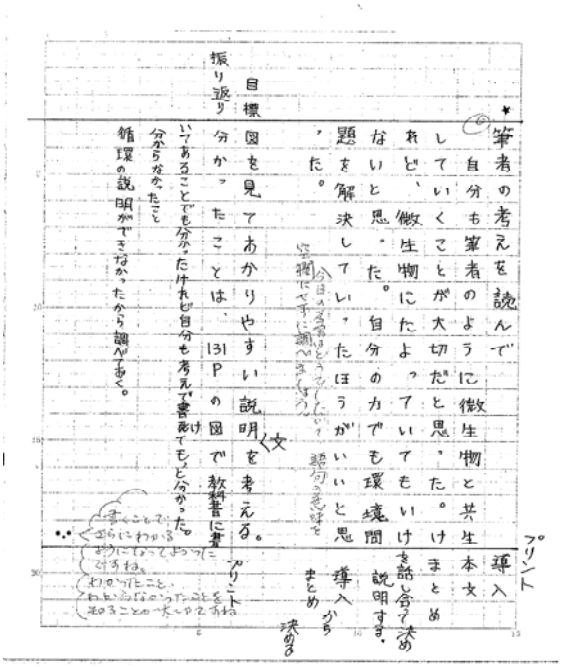


図２ 「水性ボールペンでのノートまとめ」

① 自分の考えの根拠をあげる。（論理的な思考力を高める）

② 考えを広げ自分の考えを形成する話し合い活動の場面の設定。（言語活動を工夫した授業）

もっと，自分の考えを述べ，話し合い，考えを交流する場の設定が必要である。

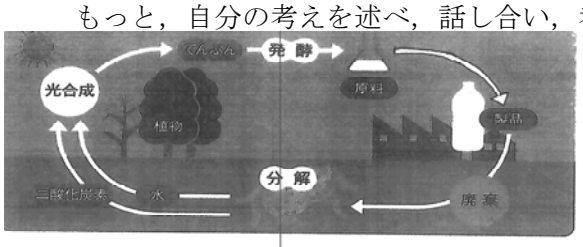


図３「ワークシート①男子生徒の説明文」

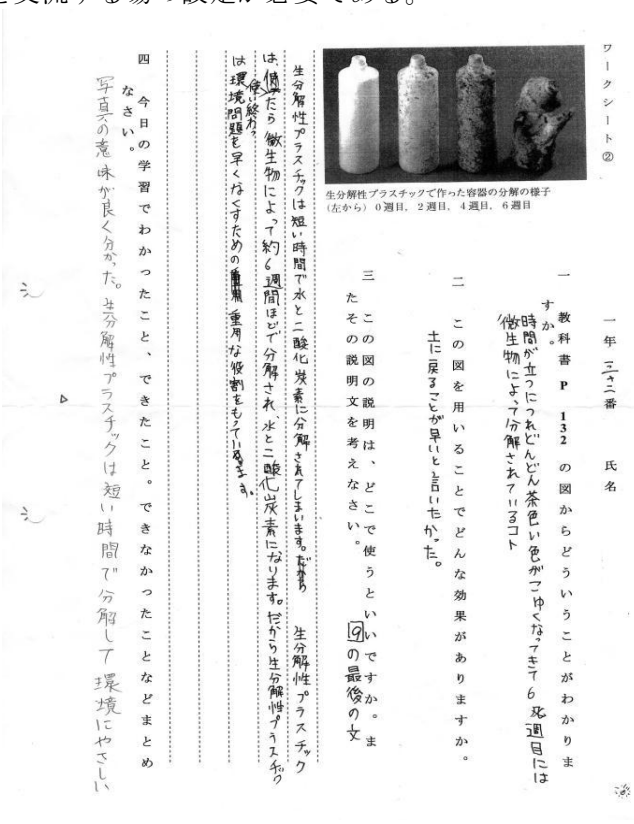


図４「ワークシート②女子生徒の説明文」

2 1学年 1月20日（水）5校時実施

(1) 単元名 ６自分を見つめる

(2) 教材名 「少年の日の思い出」 ヘルマン・ヘッセ／高橋健二 訳

(3) 育成を目指す言語能力

文章に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広くすること。

(4) 既習内容と単元（教材）との関連

これまで学習してきた文学作品の読みでは，心情を読み取ることはできても感じ取ったことを表現と照らし合わせ説明することができなかった。また，語句や表現の意味を理解出来ていないため内容解釈に影響している。「少年の日の思い出」は，現在と過去の場面で構成され，登場人物の行動を通して心情がわかりやすく描写されている。「僕」のちょうに対する思いや心情が人物や情景描写に反映されている。盗みを犯した「僕」の視点を中心に心情や登場人物の理解を深めたい。ここでは，登場人物の描写に着目し，行動と関連付けて気持ちを読み取り，根拠を説明することで論理的な思考力を育てたい。また「僕」や登場人物に対して自分の考えを話し合うことで，ものの見方や考え方を広げ「体験を伝えあおう」へと生かしたい。

(5) 生徒観

授業に対する真剣さに欠ける生徒が発表の場面で見られた。前回の話し合い活動でも課題から脱線しておしゃべりになるなど一つの課題に集中して取り組むことが厳しい面がある。また，グループ活動でおしゃべりをしてもできる子は自分だけ課題を解くなど,互いに学習し教え合う意識がまだ低い。今回は，前回の上手く出来なかった話し合い活動を工夫し，ペア学習を取り入れることで，互いに学び合い考えを広げていけるようにしたい。また話し合いの基本を押さえることで，相手にわかりやすく論理的に説明する力や主人公の気持ちを理解するだけでなく自己の体験と重ね考えを述べる姿勢を育てたい。

(6) 指導上の工夫点

① 話し合い活動（ペア・グループ学習）を取り入れ学び合う意識を持たせる。

② 心情や行動，情景描写など考えの根拠を示し作品を論理的に読むことの工夫

③ 話すこと・聞くこと・書くことの活動を効果的に取り入れる。

(7)指導計画（8時間）

	主な学習活動	指導上の留意点　△発問	備考（評価等）
1 語句の意味の理解	・目標を書く ・学習の流れの確認 ・題名読み ・本文を読む　個別 ・読後の感想を書く ・語句の意味調べ	・学習の流れを確認 ・「少年の日の思い出」とは誰が主人公でどんな思い出か考える。 ・範読し，語句や漢字に印を付けさせる。 ・印象に残ったことや「僕」や「エーミール」について感想を書く。(付箋紙使用) ・出来ない分は宿題にする。押さえるべき語句を確認する。	・ノートに記入 ・ペア A 二人で語句の意味調べや感想までまとめ話し会う。 ○語句の意味を正しく理解できたか。 ○読後の感想を書けたか。 ・付箋紙提出
2 文章の解釈	・物語のあらすじをまとめる。 ・文章構成の確認 ・場面設定，登場人物の関係を確認　ペア 確認読み ・あらすじを書く。　全体	・物語や小説の構成のパターンを説明する。 ・現在と過去の二場面の構成 ・場面で登場人物「わたし」「客」と「僕」の関係を確認 ・あらすじは簡潔に内容をまとめる。(誰が，どんなことをして，どうなったか。)	・ワークシート① ・個別～ペア A で音読確認 ・ペア→全体へ説明 ○物語の構成をとらえあらすじをまとめることができたか。
3 文章の解釈	・表現の特徴をとらえる。 冒頭部分のペア読み 情景描写 「客」の言動について　ペア てなぜこのようなことをしたか考える。 文章全体から探す　個別 「チョウ」の表現	・冒頭部分を中心に描写に着目させ，場面を読み取らせる。　(季節・時間・場所様子) ・視覚的・聴覚的部分 ・「過去」の場面で「僕」の様子などから「チョウ」への熱情的な思いを読み取らせる。・表現を抜き出しワークシートにまとめる。	個別～ペア A ○場面の様子や表現技法がわかったか。 ワークシート②（図 7) ○「僕」の「チョウ」への思いを読み取ることが出来たか。
4 文章	「エーミール」について ・エーミールの人物像をとらえる。	・司会は，シナリオをもとに記録を決め 4 人で話し合いを進行。	ワークシート③（図 8) グループ活動。

	主な学習活動	指導上の留意点○発問	備考(評価等)
の解釈	グループ ・エーミールについて思うことと根拠をあげ説明する。・話し合いの結果報告 全体 ・振り返り 個別	・メモを取りながら話を聞く。・グループ報告を確認し，全員で僕の気持ちを考える。	○エーミールについて人物像をとらえ僕の気持ちを読み取れたか。
5 文章の解釈	・ちょうに熱中する「僕」の様子を確認（ワークシート①） ・説明を聞いてまとめる。 ・盗みを犯した「僕」の気持ちを読みとる。（p160 ～ p163） ・「僕」の行動と気持ちについてまとめる。 ペア ・わかったことをまとめる。	・「僕」のちょうへの気持ちを生徒に説明させる。 ・「僕」の行動から気持ちをまとめる。 ・盗んだ「僕」の行動と気持ちを説明させる。 ・エーミールとのやりとりから「僕」の心情を説明させる。	ワークシート①確認 ○説明を聞きまとめることができたか。 ワークシート⑤ ペア B でまとめる。 ○「僕」の気持ちの変化をまとめることができたか。
6 文章の解釈	・人物の行動から気持ちを読み取る。 ・チョウをつぶした「僕」の気持ちについて考える。 ・根拠を書く。 個別	・なぜ,「僕」はちょうをつぶしたか考えを述べ,根拠となる部分をあげさせる。 ・行動の意味は何か考える。 ・全員が自分で考えてワークシートを仕上げるまで個別指導する。 ・ワークシートは提出させグループ編制	・ワークシート⑥ ・個人で考える。 ・話形資料準備 ○「僕」の気持ちを根拠をあげて読み取ることができたか。
7 自分の考えの形成（本時）	・「僕」の気持ちを考える。 ・話し合いの確認・本時の確認（P163.11 ～） ・ちょうをつぶした「僕」の気持ちやその意味について根拠をあげ考えを述べる。 ・話し合う。 グループ ・「僕」はそれで解決したか考える。 ・発表する。（記録係） 全体 ・発表を聞いて考えを書く。 ・まとめ（5 分間）） 個別	△僕はエーミールに対してどう思っていたか。 △「僕」はなぜちょうをひとつひとつつぶしたのか。 △それで解決したか。根拠をあげて説明しなさい。 ・考えを聞きながらメモをとらせる。 ・根拠がはっきりしているか。 ・違う考えや根拠が出た場合は，さらに全体で話し合う。 △「僕」がエーミールにわかってほしかったことは何か。 ○「僕」の行動や気持ちについて自分の考えを根拠をあげてまとめる。	ワークシート⑥ グループ活動 B 司会・まとめ役を決める。（4 人一組） ○「僕」の気持ちを根拠を示して説明することができたか。 ○「僕」について自分の考えを根拠をあげてまとめることができたか。
8 自分の考えの形	・「僕」が少年の日の思い出から悟ったことは何か考える。 ・「償い」について考える。 ・「償うことができない」ということについて，自分の考えをまとめる。 ・学習をふり返る。 個別	△「僕」がエーミールにわかって欲しかったことはどんなことか。 △「盗むつもりはなかった。」のになぜ，盗んだのだろう。（僕の少年の頃を確認） ・「償う」の意味を確認する。 ・「僕」がどういう気持ちだったか，自分の考えをまとめる。 ○自分のこととして考えることができる。	ワークシート⑦ ○人物の気持ちを読み取り，身の回りの出来事に置き換えて「償う」ことの意味を考えることができたか。

（8）本時の学習（7/8 時間）

① ねらい

「僕」の行動や気持ちについて考え，根拠を示し説明することができる。

② 授業仮説

ちょうをつぶした「僕」の気持ちを根拠を示し説明することで,「僕」が伝えたかった思いを読みとることができるであろう。また，話し合うことで「僕」に対する考えを広げることができ

るであろう。

③ 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点　△発問	○評価	備考
導入 5分	① 本時の目標確認 ② 学習の流れ説明 読む（p163.11 ～終わり） 話し合い 発表する 書く 振り返り	・声に出して確認する。 ・学習の流れを全員が聞き，書くことはあとで行うことを指示する。	○活動の流れと目標をわかったか。	ワークシート⑥配布 学習用具の確認
展開 35分	・ちょうをつぶした「僕」の気持ちやちょうをつぶした意味を根拠をあげて説明する。（5分間） 個 ・グループの意見をまとめ発表する。（5分間） グループ ・「僕」のエーミールに対する気持ちについて話し合う。（5分間） グループ ・話し合う。（5分間） ・発表する。（5分間） 全体 ・考えを書く（5分間）	・司会を中心に話し合いを進行する。 ・メモを取りながら聞く。 △なぜ，「僕」はちょうをつぶしたのか。 △「僕」はどうしたかったのか。一つ一つつぶすことにどんな意味があるか。 ・発表後全員で話し合い確認する○クジャクヤママユをつぶしたことをエーミールに対してどう思っているか。根拠をあげて説明する ○「僕」がわかってほしいことはどんなことか考える。	○相手を意識して根拠をあげわかりやすく説明できたか。 ○「僕」の心情を根拠をあげて説明できたか。 ○「僕」の心情を根拠をあげて説明できたか。	ワークシート⑤⑥ ・司会・記録役は決めておく。（4名一組） ・ペア B の組み合わせ ・グループの発表は記録係で行うことを指示。 ・記録用紙と進行シナリオは係へ配布。
まとめ 10分	・「僕」について自分の考えをまとめる。（5分間） 個別 ・発表する。 全体 ・本時のふりかえり（5分間） 個別	○「僕」に対する考えを根拠をあげ説明する。 ・「僕」について自分の考えや「僕」はどんな思いでいたのかなど自分の考えを書かせる。 ・考えを発表させまとめる。	○「僕」の気持ちについて読み取り，自分の考えを述べることができたか。	

(9) 本時の評価

「僕」の気持ちについて根拠をあげ説明することができた。

「僕」について自分の考えを持つことができた。

(10) 成果と課題

① 成果

・話し合い活動の中で「なぜなら,」のように読み取ったことに対する自分の考えを根拠を示して説明する話し方が生かされていた。

・話し方の話形を示すことで，慣れ合いでない話し方で進めることができた。

・生徒の感想から課題を出し，話し合うことで互いの考えを知り読みが深まった。

・グループやペア学習など毎時間取り入れたことで，互いに学習し学びあう姿勢が見られるようになった。

・根拠を示し心情を読みとる学習を繰り返したことで，細かな描写から心情を読み取ることができ国語が苦手な生徒からも「思い出も一つ一つつぶした。」という発言がでたと思われる。

・これまで自分の考えや感想を述べなかった生徒から「償い」という言葉の意味から自分の体験を結び付けて主人公の心情を自分のことに置き換えて考えることができた。

② 課題

・自分の考えを持つことはできたが，互いに深めることが出来なかった。

・グループを作る，戻す。ペアを組むなどの学習活動は，スムーズな話し合い活動を行うために各教科との連携で鍛える必要があると感じた。

Ⅶ 実態調査と結果

1 検証の方法

(1) 今回の検証授業では，事前，事後に1学年と3学年に同一テスト問題とアンケート調査を実施した。

① 説明的文章に関する問題（図５）

② 文学作品からの読み取り問題（図６）

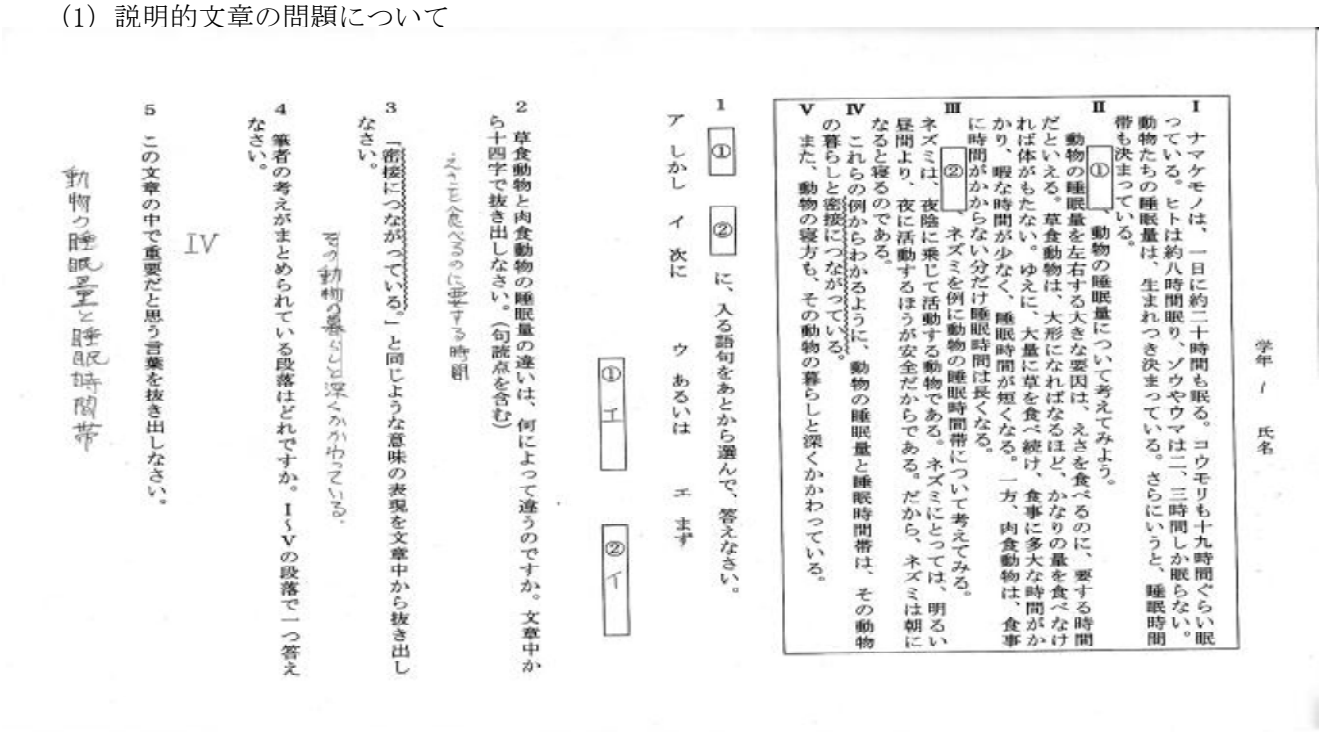
③ 情報を正確に伝える問題（図７）

④ ノートとワークシートの振り返りの例（図８・９）

⑤ 国語に関するアンケート意識調査

2 結果と考察

(1) 説明的文章の問題について



学年 ／ 氏名

Ⅰ ナマケモノは、一日に約二十時間も眠る。コウモリも十九時間ぐらい眠っている。ヒトは約八時間眠り、ゾウやウマは二、三時間しか眠らない。動物たちの睡眠量は、生まれつき決まっている。さらにいうと、睡眠時間帯も決まっている。

Ⅱ ① 動物の睡眠量について考えてみよう。

動物の睡眠量を左右する大きな要因は、えさを食べるのに、要する時間だといえる。草食動物は、大形になればなるほど、かなりの量を食べなければ体がもたない。ゆえに、大量に草を食べ続け、食事に多大な時間がかかり、暇な時間が少なく、睡眠時間が短くなる。一方、肉食動物は、食事に時間がかからない分だけ睡眠時間は長くなる。

Ⅲ ② ネズミを例に動物の睡眠時間帯について考えてみる。

ネズミは、夜陰に乗じて活動する動物である。ネズミにとっては、明るい昼間より、夜に活動するほうが安全だからである。だから、ネズミは朝になると寝るのである。

Ⅳ これらの例からわかるように、動物の睡眠量と睡眠時間帯は、その動物の暮らしと密接につながっている。

Ⅴ また、動物の寝方も、その動物の暮らしと深くかかわっている。

1 ① ② に、入る語句をあとから選んで、答えなさい。

ア しかし　イ 次に　ウ あるいは　エ まず

① エ　② イ

2 草食動物と肉食動物の睡眠量の違いは、何によって違うのですか。文章中から十四字で抜き出しなさい。（句読点を含む）

えさを食べるのに要する時間

3 「密接につながっている。」と同じような意味の表現を文章中から抜き出しなさい。

その動物の暮らしと深くかかわっている。

4 筆者の考えがまとめられている段落はどれですか。Ⅰ～Ⅴの段落で一つ答えなさい。

Ⅳ

5 この文章の中で重要だと思う言葉を抜き出しなさい。

動物の睡眠量と睡眠時間帯

図５ 説明的文章の問題

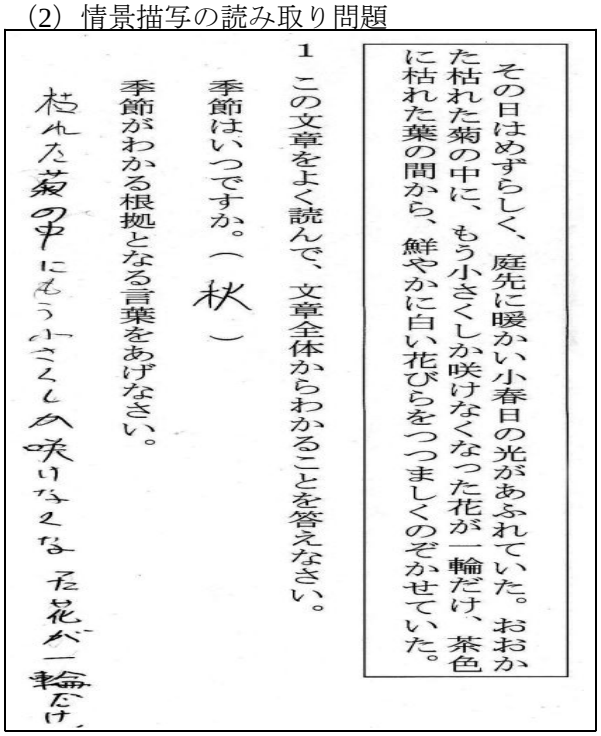
表１ 「図５ 説明文のテストの結果」

	問１		問２		問３		問４		問５	
	検証前	検証後	検証前	検証後	検証前	検証後	検証前	検証後	検証前	検証後
正答率	76,4%	82.3%	47.0%	70.5%	53,0%	70,5%	41,1%	64,7%	35,2%	64,8%（完全解答52%）,
誤答率	23,6%	17,6%	35,0%	23.6%	35.0%	17,5%	58,9%	35,3%	59.0%	29,4%
無解答率	0%	0%	18,0%	5,8%	12,0%	12,0%	0%	0%	5,8%	5,8%

問１は，接続語をあてはめる選択問題である。順序よく説明をするときの「まず」「次に」をあてはめる基本的な問題である。図６の説明文を考えるときのヒントにもなっている。問２は，「動物の睡眠量の違い」を 14 字で抜き出す問題である。無解答率が減少したことは，問題を解こうとする意識の変化の表れであると思われる。問題を解くには，文章を最後まで読まなくては答えられない。「睡眠量の違いは？」という問いに対して「睡眠量を左右する要因」という言葉に着目する必要がある。これまでただ単に読んでいたのが，言葉の意味を捉え思考しながら読んだことの表れだと考える。問

４は，「筆者の考え」の段落を答える問題である。一般的に説明的文章の筆者の考えのまとめは最後の段落に多い。文章をきちんと読まずに「筆者の考えは最後にまとめられている。」という知識で解けば最後の段落「V」と解答することを予測した。1 回目の誤答のほとんどがやはり「V」と答えていた。読むことにおける論理的な思考力の育成について明らかになった課題として，大熊徹は，「文や文章を漠然とした印象や直感的にとらえ，最後まで読まないですぐ手近な語句に反応する傾向が強い。」ことをあげていたが，1 回目の結果からその傾向がみられた。しかし，2 回目で誤答が減少したのは，段落のキーワードや要点を捉える学習や根拠を探し読むことを学習したことで，文章を最後まで読んで答えようとする意識が高まってきた結果と捉える。今回の結果から，これまで文章を最後まで読まなかった生徒から最後まで読み思考する生徒の変容がある捉えている。こうした読みの姿勢は，「図６の文学作品の情景描写を読み取る問題」からも伺える。

(2) 情景描写の読み取り問題


その日はめずらしく、庭先に暖かい小春日の光があふれていた。おおかた枯れた菊の中に、もう小さくしか咲けなくなった花が一輪だけ、茶色に枯れた葉の間から、鮮やかに白い花びらをつつましくのぞかせていた。

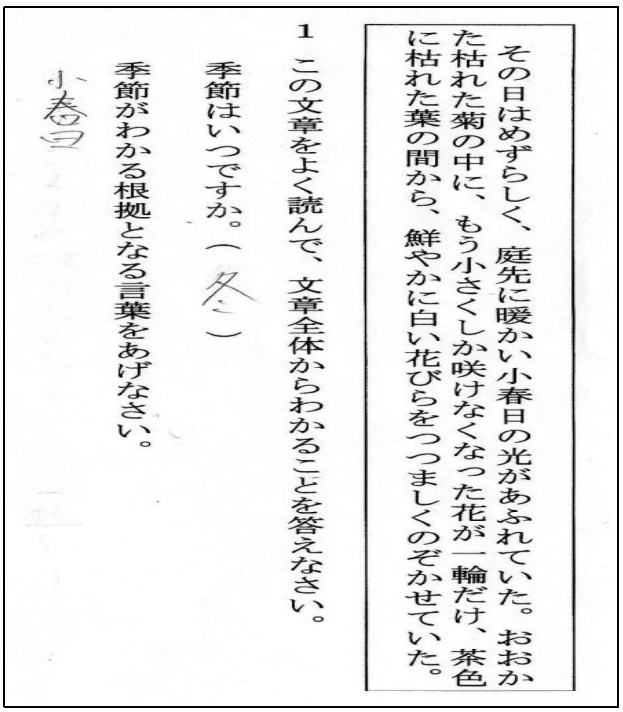
1 この文章をよく読んで、文章全体からわかることを答えなさい。

季節はいつですか。（ 秋 ）

季節がわかる根拠となる言葉をあげなさい。

枯れた菊の中にもう小さくしか咲けなくなった花が一輪だけ

① 情景描写読み取りの問題　検証前


その日はめずらしく、庭先に暖かい小春日の光があふれていた。おおかた枯れた菊の中に、もう小さくしか咲けなくなった花が一輪だけ、茶色に枯れた葉の間から、鮮やかに白い花びらをつつましくのぞかせていた。

1 この文章をよく読んで、文章全体からわかることを答えなさい。

季節はいつですか。（ 冬 ）

季節がわかる根拠となる言葉をあげなさい。

小春日

② 情景描写読み取りの問題　検証後

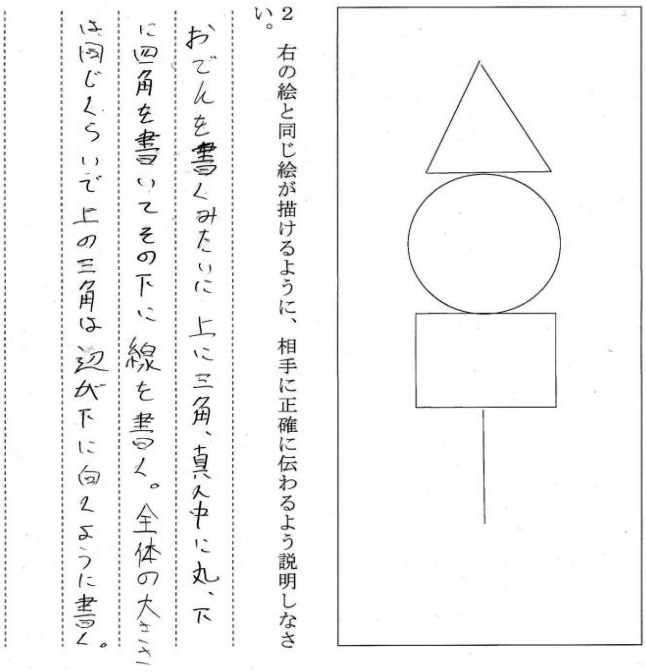
図６　Aさんの例

文章を読むときに，どういう言葉からどんな情報がわかるのか。読み取ったことを根拠をあげ説明することを意識して出題したものである。このわずか三行の文から「季節」をどう読み取るかを調べた。ここで重要な語句は「小春日」であるが，そのことにふれた生徒は数名であった。「小春日」の意味を知らず，単純に「春」という言葉だけに着目すれば「春」と答えるであろうと推測し，丁寧に読まない生徒であることがわかる。また，「小春日」の意味は知らずとも丁寧に読めば「秋」と答え，「菊」の季節がわかれば，「菊」の花が小さくしか咲けず葉が枯れる頃となれば，「秋」でないことを読み取るであろうと推測した。ここでもう一つ重要なことは語彙力である。「小春日」を知っていることや「菊」の季節を知っているかいないかは，読書や言語環境も大きい。ここでは，「小春日」を知っていることよりも「菊」の描写から読み取ることを期待した。結果は，ほとんどの生徒が「秋」（50 %）と答えた。その次が「春」（33 %）である。その理由に，ほとんどの生徒が「枯れた葉」「小春日」をあげていたが，「小さくしか咲けなくなった花が一輪」もいた。やはり語彙の力が弱いことと正しく読み取るためには教師で解説しないと理解できないことが想像できる。また，別の文章で季節を読み取る問題を出題したが「編み物をしながら」という言葉からおおよその季節を考えた生徒は少なく，季節に関しては生徒の生活体験が乏しいことが感じられた。こうした生徒の実態を踏まえ，授業実践では語彙の意味をきちんと押さえることも学習過程で位置づけた。

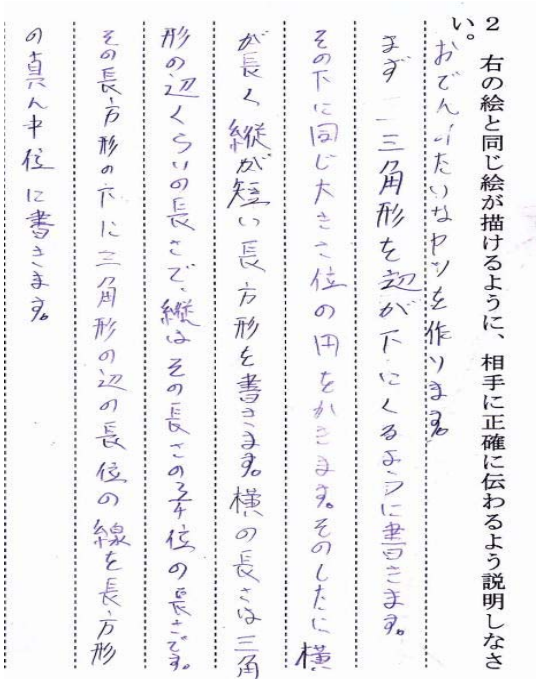
また，筋道を立てて相手にわかりやすく書いたり話したりする力は論理的な表現力であり，自分の考えを理由や根拠を示し説明することを繰り返し学習指導で行った。説明的な文章だけでなく「少年の日の思い出」の心情読み取りでも「なぜ，そう思うのか。」描写から根拠を示し互いの考えを説明し話し合う学習活動を毎時間行い学び合う姿勢を意識させた。そうすることで論理的な思考力を育て

ることと根拠や理由を述べる学習過程のパターンを習得させることを試みた。

(3) 情報を正確に伝える問題



① 情報を正確に伝える問題　検証前の文



② 情報を正確に伝える問題　検証後の文

図７　Aさんの例

A さんの場合（図６と図７）

このように，検証授業前よりも後の説明が細かい文となっていることがわかる。A さんは，普段は無気力で学習活動でも積極性に欠ける面がある。今回の授業でも初めは，書く活動を面倒がり話し合い活動にもあまり協力的ではなかった。本研究で，理由や根拠を示し自分の考えを述べる学習を繰り返し行ったことで，これまで相手意識がなく自分の考えを表現しようとなかった生徒に前向きな学習態度や発言がみられるようになった。毎時間のノートの振り返りやワークシートなどに少しずつ自分の考えを述べ真剣に授業に取り組んだ内容が見られた。図７の文はほとんどの生徒が検証前の文よりも一文から二文ほど長くなり詳しく伝えようとする文となっている。これは相手にわかりやすく伝えようとする論理的な表現力の表れであると捉えている。

(4) 図の効果についての振り返り

B さんの場合

「未来をひらく微生物」の図の効果について考える学習の振り返りである。

教科書の図と写真についての説明文（図３・４）を考えることで理解を深め，振り返りでわかったことを自分の言葉でまとめることができた。また，わかったことを自己認識することで自己の課題や目標を持つことへつなげることにもなった。

初めは，振り返りの内容に具体性がなかったが，ノート点検やワークシートでの学習を通し書く回数を重ねることでわかったことや課題について具体的に表現できるようになった。

B さんの場合，自分の考えをまとめることはできるが，話し合い活動に消極的で嫌がり学び合う姿勢が弱かった。

(5) 話し合い活動の振り返り

書く活動からの振り返り（図８）で，図の効

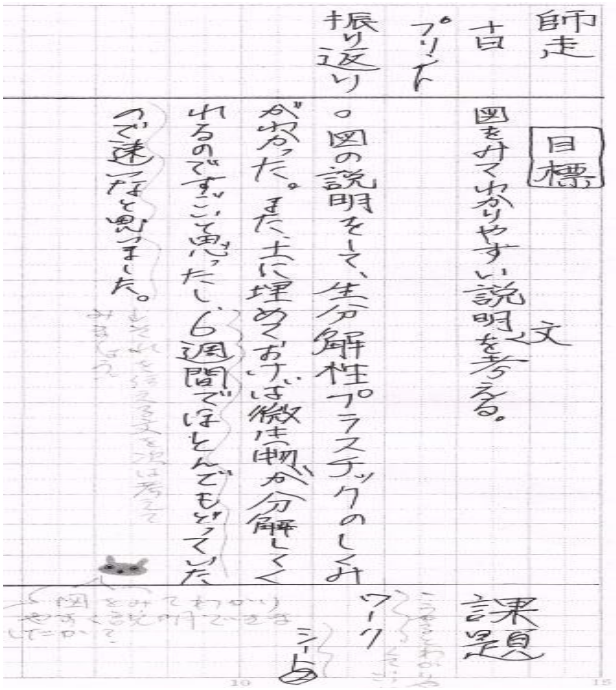
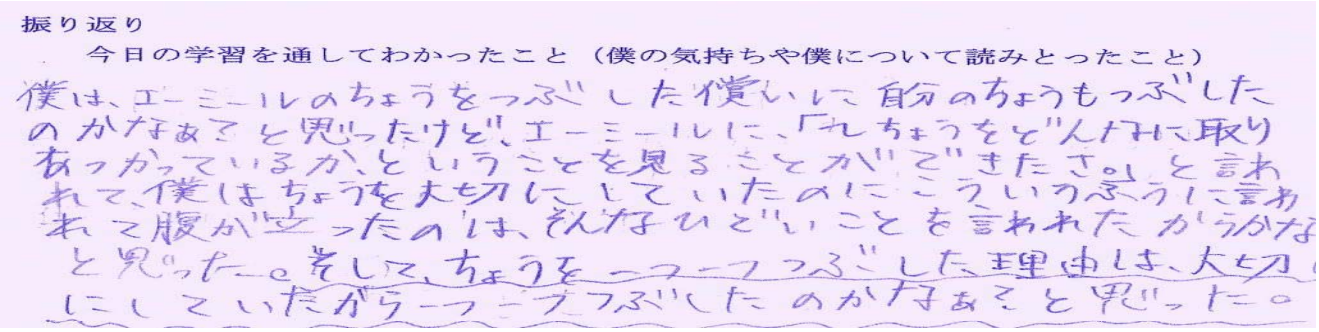


図８　ワークシート②の振り返り　Bさん

果からわかったことをまとめたが，話し合い活動（交流）を行い振り返りで自分の考えをまとめたものである。（図９）


振り返り

今日の学習を通してわかったこと（僕の気持ちや僕について読みとったこと）

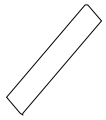
僕は、エーミールのちょうをつぶした償いに自分のちょうもつぶしたのかなあと思ったけど、エーミールに、「れちょうをどんなに取りあつかっているか、ということを見ることができたさ。」と言われて、僕はちょうを大切にしていたのにこういうふうに言われて腹が立ったのは、そんなひどいことを言われたからかなと思った。そして、ちょうを一つ一つつぶした理由は、大切にしていたから一つ一つつぶしたのかなあと思った。

図９　話し合い活動後のワークシートの振り返り　Bさん

自分の考えを根拠を挙げて話し合ったあと振り返ることで，読みを深めることができた。説明的文章だけでなく，小説や物語などで心情を読み取ることも自分の考えの根拠を示し話し合うことで，考えを広げ振り返りで深めることへつながった。自分の考えを根拠を示すことや根拠を文章から挙げるため何度も読みをすること，自分の考えを交流することで理解を深めることができた。

(6) 国語に関するアンケート結果の考察

①　　検証前　　検証後



検証前は①「小説・物語」が７名であるが男子は特に印象に残った作品はあげられていない。次に多いのが⑥「好きな分野がない」と答えた生徒である。国語に対する意識が低いことが感じられる。1学年で印象に残った作品は「竹取物語」や「のはらうた」など音読を中心とした作品の他に「クジラたちの声」の説明文をあげた生徒もいた。

検証後は①「小説・物語」が増え，印象に残った作品に「少年の日の思い出」などあげられている。また⑥「その他（ない）」と答えてた生徒が０になっている。これまでよりも真剣に質問に答えようとする姿勢や考えようとする姿勢がうかがえる。

②　　検証前　　検証後

検証前は①「グループ活動・話し合い」が楽しいと答えたのはほぼ男子であった。女子はほとんどが②「漢字」③「暗唱」などで「話し合い」活動に対して消極的な姿勢がみられる。

検証後は，①「グループ活動・話し合い」が圧倒的に多い結果となった。これまで男子との話し合い

活動を敬遠していた女子に変化がみられた。また，男子から「他の人が読んでいるとき」など主体性に欠ける姿勢が消えたのも学習に対する前向きな姿勢の表れと捉える。

③　　**検証前**　　**検証後**

検証前は，③「漢字や言葉などの語彙力」が最も多かった。これは，日頃漢字テストを頻繁に行っているため，それに対する意識からだと思われる。次に多かったのが④「文章を書く力」だが，検証後は①「話す力」となっている。これは，検証授業において「話し合い活動」を行うことで，自分の考えを述べる難しさを実感したからと思われる。問②「どんな活動をするのが楽しいか。」の結果で，「話し合い活動」が多かったことから「もっと話す力をつけたい。」「話し合い活動をしたい。」という前向きな意識の表れだと捉える。

Ⅷ　成果と課題

1　成果

(1) さまざまな読みの指導をすることで，要点や心情などを読み取ることができるようになった。
(2) 根拠や理由を示すことで，自分の考えを自分の言葉でわかりやすく説明することができた。
(3) 学習の流れを提示し，活動を明確にすることで，主体的に学習に取り組む生徒が増えた。
(4) 毎時間の学習を振り返させたことで，学習状況を客観的に把握し学習意欲の高まりが見られた。
(5) 話し合い活動を重ねることで建設的に意見を述べ互いに学び合う姿勢が出てきた。
(6) グループ活動やペア学習など交流をすることで全員が自分の考えを述べることができるようになった。

2　課題

(1) 論理的な思考力の深まりが十分でない面もあった。
(2) 学習意欲が持続しないことがあり，興味・関心を持たせる工夫が必要である。

〈主な参考文献〉

文部科学省　2008　『中学校学習指導要領解説　国語編』　東洋館出版社
植西浩一　著　2009　『活用型の国語科授業づくり　中学校編』　明治図書
大熊徹　編著　2009　『中学校国語科　「活用型」学習の授業モデル』　明治図書
田中洋一　編著　2009　『国語力を高める言語活動の新展開「読むこと」編』東洋館出版社
有元秀文　2009　『PISA と全国学力調査の結果から考える国語教育の改善　指導と評価』
佐藤洋一　2009　『これから求められる学力と国語科の指導　指導と評価』日本図書文化協会
　　2009　『日本の国語教育ースタンダードと日本のアイデンティティの行方ー』愛知教育大学
須田実　編著　2005　『国語力をつける発問づくり　中学校』　明治図書
高橋俊三　2001　『21 世紀型授業づくり 40 国語科話し合い指導の改革ーグループ討議からパネル討議までー』明治図書
小田迪夫　2000　『表現の根拠を問う指導と表現結果を検討する指導を　国語教育』　明治図書
入部明子　2000　『「見えない思考」から「見せる思考」へ　国語教育』　明治図書
大熊徹　1997　『国語科教育の授業改善＜基礎理論＞第 1 巻論理的思考力を育成する授業』日本文教社
野地潤家　1987　『教育科学国語教育』　明治図書